

第8回 台東区子供歴史・文化検定 解答と解説（中学生用）

解説文の最後に、参考として『台東区歴史・文化テキスト 改訂版』の頁数を掲載しています。

平成29年度 台東区教育委員会

問1.

解答 ア

解説 浅草寺の始まりは628(推古天皇36)年、檜前浜成、竹成の兄弟が、隅田川から仏像を網ですくいあげ、土地の有力者であった土師中知がその仏像を観音像と判断して、まつたことといわれています。

(12頁)

天海僧正は1625(寛永2)年に上野の山に寛永寺を建てました。

(16頁)

問2.

解答 ウ

解説 徳川慶喜は武力衝突を避けるため大政奉還を行いました。戊辰戦争が始まってしまいました。慶喜は状況を判断し、上野寛永寺大慈院に謹慎しました。(24頁)

問3.

解答 ア

解説 太平洋戦争末期、空襲を避けるため国民学校初等科3年生以上6年生までの児童が、1944(昭和19)年3月より親類縁者を頼って地方に移住する縁故疎開がはじまり、8月には縁故疎開が困難な児童を対象として学校単位で地方へ疎開する学童疎開が開始されました。(33頁)

問4.

解答 工

解説 1947(昭和22)年に区の合併がおこなわれ、文京区や墨田区などが誕生しました。台東区は下谷区と浅草区が合併しました。(34頁)

問5.

解答 イ

解説 上野台周辺を支配していた豪族の墓と考えられている大型の前方後円墳は摺鉢山古墳です。そのまわりの小型の円墳からは鉄製の太刀や埴輪などが発見されています。(10頁)

問6.

解答 ア

解説 武蔵野台地には、海などの侵食によって多くの細長くなった台地が削りだされています。上野台はその東の端にあたります。(8頁)

問7.

解答 ウ

解説 初代、3代将軍は日光山に、4、5、8、10、11、13代将軍は寛永寺に、2、6、7、9、12、14代将軍は増上寺に、15代将軍は、谷中の寛永寺墓地にお墓があります。(19頁)

問8.

解答 ア

解説 徳川慶喜が寛永寺に謹慎したことによって、彰義隊も上野の山に立てこもりました。しかし、5月15日、官軍の総攻撃を受けてわずか半日で敗れ去りました。(23頁)

問9.

解答 ウ

解説 山岡鉄舟は、幕末の三舟と呼ばれる幕臣のうちの1人で、高橋泥舟に頼まれて西郷との会談にのぞみました。これが成功して後の江戸城無血開城への道が開かれたのです。(24頁)

問10.

解答 エ

解説 江戸時代中期には調味料が使われ始め、食文化が豊かになりました。江戸時代後期になると、そばやすし、てんぷら、おでん、うなぎのかば焼き料理などの考えが出されました。牛なべは明治時代に考え出されました。(37頁)

問11.

解答 ウ

解説 寛永寺の「時の鐘」は大仏の正面に設置されています。現在でも1日3回、朝夕6時と正午に時刻を告げています。浅草寺の「時の鐘」は弁天山に設置されて、1日1回朝6時に鳴らされています。(54頁)

問12.

解答 イ

解説 長屋は横長の建物を壁で仕切り、カマドをおく台所のある土間と4畳半の板敷きの部屋がありました。便所(トイレ)や井戸は共同でした。(38頁)

問13.

解答 イ

解説 読売という名前は、街の中を内容を読みながら売り歩いたことに由来します。(55頁)

問14.

解答 イ

解説 伝統的な技能を無形文化財・生活文化財に指定する制度は台東区だけにあるものです。(60頁)

問15.

解答 イ

解説 ^{ふすまひきて}襖引手作りは、2008（平成20）年に生活文化財に指定されました。
引手とは、襖を開け閉めするときに手をかける部分のことをいい、^{ほりぐち}堀口
^{せいさくじょ}製作所を^{けいえい}経営する^{ほりぐちひろし}堀口宏さんが襖引手作りを受け継いでいます。

（60頁）

※襖とは、木などでできた骨組みの両面に紙や布を張ったもので、それに引手を付けたものです。和室の仕切りなどに使われます。

問16.

解答 ウ

解説 江戸時代の初め、隅田川^{えんがわ}の沿岸では焼き物を焼くことが行われており、
今戸でも素焼きの土器が焼かれていました。^{めいれき}明暦の^{たいか}大火で江戸のあちこちから焼き物を焼く職人が集まってきたため、今戸焼も1つのブランドとして有名になりました。（60頁）

問17.

解答 ア

解説 台東区では路線バスの廃止や公共交通の整備されていない地域のため、
2001（平成13）年から循環バス「めぐりん」の運行を始めました。
（66頁）

問18.

解答 ウ

解説 鎌倉時代、台東区には現在の江戸通りに沿って区内を北上し、東北地方
に向かってのびている「^{しもつみち}下道」が通っていました。江戸時代になるとこの道は奥州街道の一部として使われました。（67頁）

問19.

解答 工

解説 明暦の大火の後に江戸の中心にあった寺院が整理され区内にもたくさんの寺院が移転させられました。関東大震災は1923（大正12）年9月1日に東京府を中心に、神奈川、埼玉、千葉など1府6県に被害をもたらしました。（83頁）

問20.

解答 ウ

解説 大正通りは都内では、墨田区の東向島や吉祥寺にもありますが、区内には通っていません。（68頁）

問21.

解答 イ

解説 江戸時代の人々の移動手段は一般的には徒歩でした。明治時代に入ってから乗合馬車のりあいばしゃが走り始めましたが、乗り心地がとても悪かったようで、路面に線路を引いた鉄道馬車が運行されるようになりました。（64頁）

問22.

解答 工

解説 区内の北側には田圃たんぼと呼ばれる耕作地こうさくちがあちこちにありました。そのうちの1つが千束田圃です。（79頁）

問23.

解答 ウ

解説 広小路はもともと繁華街であったところにつくられました。浅草寺や寛永寺の山下、江戸橋などは賑やかな繁華街にぎでした。（80頁）

問24.

解答 ウ

解説 七福神とは恵比須、大黒天、毘沙門天、弁財天、福祿寿、布袋、寿老人を
いいます。(88頁)

問25.

解答 ウ

解説 明治時代に盛んだった朝顔市は、1913(大正)年に途絶えましたが、
1948(昭和23)年に復活し、入谷鬼子母神(真源寺)境内を中心
に朝顔を売る店が立ち並んで昼夜賑わっています。(94頁)

問26.

解答 エ

解説 江戸時代の両国の川開きに由来をもつ花火大会で、戦争などの事情で中
断していたものを、1978(昭和53)年に隅田川花火大会の名で場
所を変えて復活させたものです。毎年7月の最終土曜日に行われ、当日
は見物の人々で両岸や橋の上が賑わいます。(94頁)

問27.

解答 ウ

解説 熊手は「福を掻きこむ(取り込む)熊手」という文句とともに、お多福や
千両箱、稲穂などをつけた熊手が縁起物として境内で売られるようにな
りました。(96頁)

問28.

解答 エ

解説 亡者送りの松明の燃え殻は、厄除け(災い除け)になるといって捨てる人
が多くいます。(89頁)

問29.

解答 ウ

解説 円朝は江戸落語中興ちゅうこうの祖そといわれ、自作の落語で人気を得ました。彼は伝統的な落語に明治の新しい形を取りいれました。(95頁)

問30.

解答 イ

解説 清水観音堂の本尊に向かって右手にまつられる子育こそだて観音には、子供を授かった人々がお礼に人形を納める風習があります。そこで9月25日に法要を行い、人形のお焚たき上げをします。(95頁)

問31.

解答 イ

解説 大川(隅田川)の主ぬしだとも言われるこの鯉こいを食べてしまった若者は、苦しみだし、次々に亡なくなってしまいました。人々は鯉のたたりだとして、住職たのに頼たのんで供養くようしてもらい、鯉塚こいづかを建てました。鯉塚は「鯉」と「恋こい」とが同じ音ということで、縁結えんむすびの塚として親しまれています。(105頁)

問32.

解答 ウ

解説 小野照崎おのてるさきじんしゃ神社には、日本最古の学校と言われる足利あしかががっこう学校をつくったと伝えられる小野篁おののたかむらがまつられています。関東大震災かんとうだいしんさいや第2次世界大の被害ひがいにもあわず、1866(慶応けいおう2)年に建てられた社殿しゃでんがそのまま残っています。(109頁)

問33.

解答 工

解説 1923（大正12）年、関東大震災で焼失しましたが、第2次世界大戦の空襲の際にはまったく損傷がありませんでした。第2次世界大戦より前の1934（昭和9）年に建て替えられています。その時に日本画の巨匠横山大観によって描かれた天井絵「龍」が神社を火事から守ったと言われています。（110頁）

問34.

解答 イ

解説 東京には5つの目の色をした五色不動があり、五色とは目白・目赤・目黒・目青・目黄の各不動のことです。現在の目白（豊島区）・目黒（目黒区）の地名は、この五色不動にちなんだものです。（107頁）

問35.

解答 工

解説 平賀源内についてはさまざまなことが伝えられていて、その他には「日本で最初に油絵を描く」などが伝えられています。また、台東区橋場には、平賀源内の墓（国指定史跡）があります。（122頁）

問36.

解答 ウ

解説 地域ごとに田畑・山林・屋敷などを色や文字で区切った地図を切絵図といいます。切絵図の文字の向きは、表門のある方向を表しています。（125頁）

問37.

解答 工

解説 朝倉文夫は、1967（昭和39）年に亡くなるまでの57年間を朝倉調塑館で過ごしました。また、明治・大正・昭和時代を通じて日本彫刻界に貢献した功績によって、1948（昭和23）年に文化勲章を受章し、1961（昭和36）年には台東区名誉区民となっています。（131頁）

問38.

解答 ウ

解説 中村不折は書道博物館を開館した人物であり、博物館には書をはじめ、不折が書道研究のために集めた中国及び日本の書道に関する資料、考古出土品など、重要文化財12点、重要美術品5点を含む1万点以上が所蔵されています。（162頁）

問39.

解答 ウ

解説 高橋泥舟は幕末の三舟と呼ばれる幕臣のうちの1人です。誠実な人柄であったと伝えられています。（24頁）

問40.

解答 イ

解説 泰平とは世の中が穏やかなことを指す言葉であって、人の名前ではありません。（134頁）

問41.

解答 工

解説 明治時代初めには国産の自転車がつくられ、売られるようになりました。1898（明治31）年11月6日に大日本双輪クラブ主催の日本で初めての自転車競技が不忍池を回るコースで行われました。当時の自転車は大変高価な乗り物で、貴族や財閥がスポンサーとなり選手たちを応援していました。（147頁）

問42.

解答 イ

解説 1927（昭和2）年12月30日に東京初の地下鉄が上野～浅草間2.2kmで営業運転を始めました。1939（昭和15）年には路線が渋谷まで延長され、現在の東京メトロ銀座線が完成しました。（151頁）

問43.

解答 ア

解説 自動電話と名づけられました。当時の市内通話料は1通話5分で15銭でした。当時の15銭は米が1.5kg（1升）以上買えるほど高かったので、利用者が少なかったようです。公衆電話という名称になったのは1935（大正14）年のことです。（152頁）

問44.

解答 工

解説 大正時代中期の道路には、市内電車、乗合自動車、一般の自動車などが行きかい、交通量は増加していきました。人力車や荷車に代わって電車や自動車、自転車が主な乗り物となり、人と物を運ぶスピードも増して、交通信号の必要も生まれたのです。（153頁）

問45.

解答 ア

解説 上野公園は日本最初の公園として、1876（明治9）年5月に開園しましたが、式典後のレセプションの会場に困った大久保利通（内務卿）は岩倉具視と相談して、岩倉の知り合いであった精養軒に上野への出店を依頼したのです。こうして上野精養軒は1876（明治9）年4月に現地にオープンしました。（140頁）

問46.

解答 工

解説 中村不折は1915（大正4）年から亡くなるまでの30年間、この根岸の地に住んでいました。不折は森鷗外や正岡子規らとの親交が深く、夏目漱石の『吾輩ハ猫デアル』など装丁画も描いています。（162頁）

問47.

解答 工

解説 正岡子規（1867～1902）は、1894（明治27）年から1902（明治35）年に35年の生涯を終えるまで、根岸に住み、たくさんの俳句や短歌をつくりました。もともと子規が住んでいた建物は東京大空襲で焼失してしまいましたが、家を建て直して公開しているものが、子規庵です。（166頁）

問48.

解答 イ

解説 六角堂は浅草寺にある単層の六角づくりの建物です。屋根は瓦でおおわれ、もとは現在の影向堂の場所に建てられていましたが、1994（平成6）年に現在の地に移されました。お堂の入り口には枝垂れ桜が咲き、とても美しい景観です。（167頁）

問49.

解答 ア

解説 連々齋^{れんれんさい}が、神田^{かんだ}にあった茶室を1869（明治2）年に池之端の不忍池北東側に移築したのが一円庵^{いちえんあん}です。入り口は多くの樹木^{じゅもく}に囲まれて、ひっそりとした美しさがあります。1962（昭和37）年に都有形文化財の指定を受けました。（非公開^{ひこうかい}）（166頁）
天佑庵は、浅草寺^{せんそうじ}の伝法院^{でんぽういん}の庭の中にあり、京都の不番庵^{ふしんあん}にならってつくられました。（167頁）

問50.

解答 エ

解説 江戸下町工芸館（ギャラリー匠^{たくみ}）では、手作りの伝統工芸品が400点近くも展示^{てんじ}されています。（158頁）

MEMO